

イタリアのバイオスティミュラント資材の御紹介



新しい葉面散布用液肥「Megafol」

【製品の特長】

- ・総合的に環境ストレス（乾燥・多湿・低温・高温）を軽減できるアミノ酸入り葉面散布液肥で植物が有する自己防御反応を高めることで安定した生育を確保できます。
- ・低分子アミノ酸（N）を含むため、栄養成長（新葉の形成及び展開促進）を促進します。
- ・輸送タンパク質を含み、作物への浸透移行性が高く、肥料成分が速やかに吸収されます。
- ・除草剤との混用散布し葉害が生じた場合でも、作物の生育回復が早くなる傾向がみられます。

【施用方法】

- ・使用回数は2～3回、希釈倍率は500倍程度、原液：200～300ml/10aを目安とします。
- ・水稻、葉菜類、根茎菜類、果樹等多くの作物で効果があります。（使用基準は別紙参照）

【製品の有効成分】

主要含有成分	窒素全量(%)	水溶性加里(%)	pH	比重
①グリシンベタイン、プロリンベタイン ②低分子アミノ酸（プロリン、グルタミン酸） ③輸送タンパク質	2.0	6.5	6.5 (100倍)	1.22

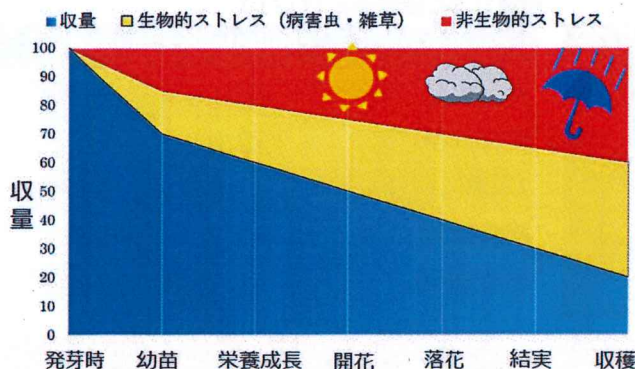
※輸入肥料登録番号：輸第105582号（輸入業者：三井物産アグロビジネス株式会社、原産国：イタリア）

【バイオスティミュラントとは？】

バイオスティミュラントは、植物に対する非生物学的ストレスを制御することにより気候や土壌の状態に起因する植物のダメージを軽減し、健全な植物を提供する新しい技術です。

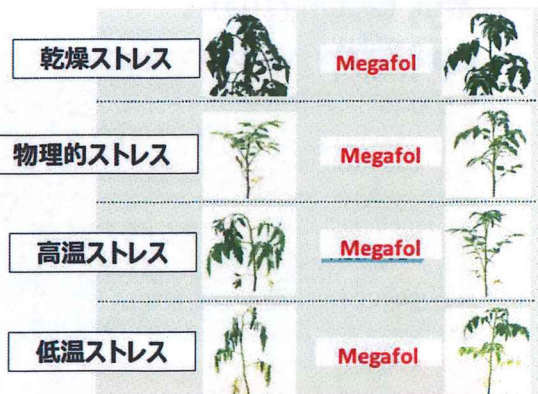
直訳すると、Bio(生物/植物)+Stimulant(刺激)＝植物刺激材の意味です。

作物に刺激を与えストレスを受ける前に抵抗性を高めるための葉面散布用液肥が「Megafol」です。



作物の潜在的収量のストレスによる低下（概念図）

出典：日本バイオスティミュラント協会ホームページ（改図）



環境ストレスに対するMegafolの試験事例(右:処理区)

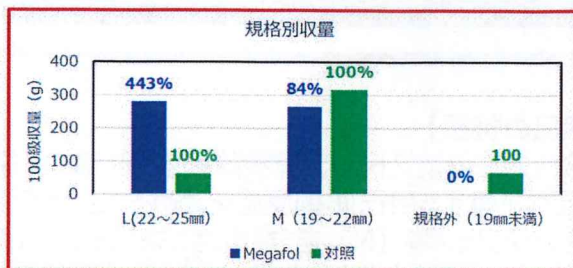
出典：イタリアValagro社試験事例



日本国内での試験事例紹介（2019年）

①試験事例：果樹（青森/サクランボ/佐藤錦）

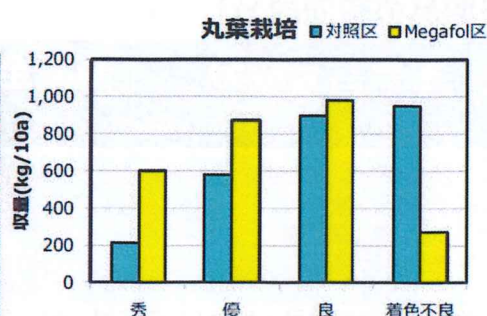
2019年は4月（開花始期）～収穫開始（6月）まで長期間にわたり乾燥ストレスを受けたため開花始期、落花期の2回Megafolを葉面散布（200ml/10a）。



Megafol散布区：着色促進、平均1果重の増加、秀優品率の増加

②試験事例：果樹（青森/リンゴ/ふじ）

乾燥ストレス軽減効果を目的として、花蕾露出期、開花直前、落花直後、果実肥大期の計4回、Megafolを葉面散布（200ml/10a）。



Megafol散布区：着色促進による秀品率向上、収量および糖度増加

③試験事例：果樹（和歌山/温州ミカン/宮川早生）

柑橘類の着色促進効果を目的として、開花期(6/1)、終花期(7/9)の計2回、Megafolを葉面散布（200ml/10a）。



樹齢10年の調査結果（11/10）

	Megafol区	対照区
着果数(個/樹)	529	425
果径(mm)	59.0	56.8
1果重(g)	93.9	85.4
総収量(kg/10a)	49.7	36.3
糖度(Brix)	11.7	11.0

Megafol散布区：着色促進による品質向上、総収量および糖度増加

Valagro社の商品紹介 葉面散布材『Megafol』

	使用時期	使用回数	投下量 (/10a)	目的
小麦	①MCP混用散布（5月下旬）	1回	200~300ml	除草剤使用後の生育回復
馬鈴薯	①塊茎形成初期②開花始め（10%開花）	2回	①200ml ②300ml	①栄養生長促進 ②高温ストレス軽減
大豆	①パワーガイザー混用散布 ②花芽形成直前	2回	①100ml ②200ml	①除草剤使用後の生育回復 ②高温乾燥ストレス軽減
玉ネギ	①5葉期（アクチ,ナブ,セレクト等と混用散布） ②鱗茎肥大始期 ③鱗茎肥大始期から10日後	3回	①100ml ②200ml ③300ml	①除草剤使用後の生育回復 ②葉の展開促進 ③高温乾燥ストレス軽減
甘藷	①塊根肥大肥大始め ②1回目の14日後 ③2回目の14日後	3回	①200ml ②200ml ③200ml	①高温乾燥ストレス軽減 ②殺菌剤使用時ストレス軽減
大根	①播種20日後 ②播種30日後	2回	①200ml ②200ml	①葉の展開促進 ②高温乾燥ストレス軽減
キャベツ	①定植14日後 ②定植28日後	2回	①200ml ②200ml	①新葉形成のスピードアップ ②結球促進 ③栽培期間短縮

Valagro社の商品紹介 葉面散布材『Megafol』

	使用時期	使用回数	投下量 (/10a)	目的
大蒜	①5葉期～7葉期（除草剤との混用散布可） ②①の14日後（鱗茎肥大始期頃） ※①と②の間隔は最大14日	2回	200ml	低温・乾燥・加湿ストレス軽減 葉の展開促進 除草剤使用後の生育回復
牛蒡	①草丈15～20cm（目安45DAS） ②草丈35～40cm（目安60DAS）	2回	200ml	低温・乾燥・過湿ストレス軽減 葉の展開促進 除草剤使用後の生育回復
長いも	①主たる伸長前期（目安60DAT） ②主たる伸長後期（目安75DAT）	2回	200ml	高温・乾燥・過湿ストレス軽減 葉の展開促進
人参	①茎葉伸長盛期（目安60DAS） ②茎葉伸長後期（目安75DAS）	2回	200ml	高温・乾燥ストレス軽減 葉の展開促進、根の伸長促進
みかん	①開花前②開花後③着果直後	1回	200～300ml	高温乾燥ストレス軽減、栄養生長促進
ぶどう	①着果直後②果実肥大期に2回	3回	200～300ml	高温乾燥ストレス軽減、栄養生長促進
りんご	①花蕾露出期②開花直前	2回	①200ml ②200ml	低温・霜害等のストレス軽減
桜桃	①開花始期②落花期	2回	①200ml ②200ml	低温・霜害等のストレス軽減